

# ふくろう新聞

< 発行 >  
 特別養護老人ホーム  
 淡路 ふくろうの郷  
 広報委員会  
 洲本市中川原町  
 中川原 28 番地 1  
 TEL: 0799-25-8550  
 FAX: 0799-25-8551  
 ホームページ  
<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>

よもでなり  
 ろ全す 4  
 し国。ま月  
 くの。すは  
 お皆内容。も  
 願様に。新  
 いに更。年  
 い情。度  
 いた報。が  
 しま発有  
 します。難  
 うご  
 ざ  
 い  
 ます。

## 新年度スタート

4月1日、職員に向けて寄せられた施設長・大矢の挨拶をそのまま記事とします。

うの郷を目指しましょう。  
 この中で、新採用の職員を含めた全職員が、自分は温かい人間なのか、他人の願いに寄り添えているか、と自問自答しながら、自分の人間的成長を押し上げて下さい。頑張りますよ。

山田監督の新しい映画「おとうと」がとてもいい。おすすめです。観た人から聞くと、おとうとが末期ガンになり、地域のボランティアが経営するホスピスで胃ろうをつけている。胃ろう注入に、おとうとは姉に水だと言つて焼酎を入れさせ、職員を慌てさせます。とても大事な場面です。おとうとはお酒大好き人間です。その気持ちにどの様に寄り添っていくか、私たち職員の専門性が問われます。みなさんはふくろうの郷に働く中で、いろんなことに気づくでしょう。ろう者や他の障害を持つ人々にも関わるようになると、日本語で話し、言葉でパッパッと希望や要望、つまり「困っていること・辛いこと」。



▲いつも魅力的な被写体を探している正パシャリ☆

▲みんなで恒例の記念撮影。これからも1枚1枚増やしていきたいですね。

## 気持ち一新 春の訪れ



▲踊る大きな獅子舞



▲愛嬌のある獅子舞の顔「照れるやんか〜」と言ってます。

4月4日(土)、今年もまた地域のみなさんが淡路ふくろうの郷まで、だんじり・獅子舞と共にお越し下さいました。毎年、本当にありがたいですね。  
 中川原祭礼団団長の炬口卓也さんから「地域の伝統を守るためにこれからもがんばっていきます。ふくろうのみなさんもお元気にしてください」と、メッセージをいただきました。頑張ります！

いよいよ新年度、開所して五年目のスタートです。わたくしは、病気の再発のため、病室でのスタートです。顔を向き合わせられないのは残念だけど、皆さんとしっかり手を携えて行きます。  
 ふくろうの郷がさらに「人権と共生」の理念を磨き上げて下さい。それは自分も暮らしたいと思えるふくろうの郷を目指すことです。入所者さんが活発に出かけて社会参加し、そして、沢山の方々が入所者さんや職員から元気を分けってもらいに来て下さり、あるいは人生の学びのためにふくろうの郷に来られる、いつもいつも人で溢れるふくろうの郷を目指しましょう。



・して欲しいこと」などをあまり言われたいことを経験するかも知れません。そんな時、勝手な判断で『この人は言えない障害者なんだ』と決めつけてはなりません。『言えない障害者』ではありません。介護や支援者が、この人は聴いても答えられない、わからない人だと決め付けて、聴いてないだけなのです。聴いて、引き出せる力をこちらが足りない、持っていないだけなのです。引き出せないと介護・支援者にはなれません。ふくろうの郷は、京都のいいこの村・梅の木寮の実践に学び、伝える伝えるコミュニケーション支援の重さを意識していきたいものです。

高齢の方への介護・支援にも同じことが言えます。人間に対する援助職としての看護や介護、あらゆる支援の根本姿勢ですね。日本語で言っても伝わらない、視覚支援を梅の木寮では大事にしてみました。相手の話を聴くこと、そこから支援が始まります。何も言えない人



縫い物の手を止めて、カメラを見てくださいました☆

## 入所者紹介 かみ せい 神生さん

(特養)淡路ふくろうの郷  
施設長・大矢 暹

ているならば、それはこちらの責任です。ひとり一人に寄り添い、心を傾け、その方のこれまでのたどり来た多難な人生を聞きだし、そして希望を引き出し育てて行く、そんな職員に私たち自身を高めていきましょう。

神生さんは昨年 12 月に入所され、1 月で 92 歳を迎えられました。入所された当時の神さんは車イスに乗られ、日中も休まれることが多かったのですが、手話のできる仲間にも囲まれ、おしゃべりを

される時間が日に日に長くなり、いつのまにか車イスを自分で操作して皆さんの輪の中に入って行かれるようになりました。同時に手すりにつかまって歩く練習も取り組まれ、今では車イスを使わずどこへでも歩いて行かれるようになりました。



ユニットのベランダから見える桜。暖かな春の日差しを受けて、とてもきれいですね。

しろい冗談でみんなを楽しませて下さる、おしゃべりの上手な神さんの私の一番好きな言葉は「ありがとう」です。本当に些細なことでもいつも手を合わせて「ありがとう」と言ってお下さいます。毎日寝る前にお部屋を出ていく職員に向かって、布団の中から聞こえる「ありがとう」は神さんの人柄が伝わってきます。

(介護・小林)



ユニットのみなさんと☆

## ふくろう手芸講座



写真①



写真②

みんなでがんばっています。

只今、作品を量産中☆  
写真①は新製品「チャーム」350円。  
写真②は「吊るし飾り」700円です。



ふくろう喫茶

4/18(日)

13:00~15:00

ふくろう喫茶で入所者さんと楽しい時間を過ごしませんか。

・コーヒー・ココア・紅茶  
・カルピス などなど ￥200 より

## 笑顔咲く♪お花見

きれいに  
撮れた☆

4月3日(土)、三熊山へ  
お花見に行ってきました。

お花見日和の中、車で  
曲田山(まがたやま)まで  
行ったのですが、土曜日の  
せいもあって、たくさんの人  
で混雑していたため、急遽、



▲満開の桜を背に、みんなとってもいい笑顔。



▲登りきってみれば  
マイナスイオンを感じるね。

うわっ…… →  
なんて過酷な道のり  
なんでしょう…



(介護：谷口 愛)

三熊山(みくまやま)へ変更  
になりました。到着すると、  
待っていたのは急勾配の  
坂! 入所者さん・職員共  
に「ハーハー」言いながら、無  
事目的地に到着しました。  
頑張った登った甲斐があ  
り、三色団子と甘酒を飲  
みながら、満開の桜を目の  
前に、笑顔があふれまし  
た。桜の向こうには海も見  
え、しばらくの間、楽しいひ  
と時を過ごしました。  
また来年も行きましょう  
ね。

## 3/27(土) 第8回ふくろう学習会

講師：いこいの村・梅の木 寮  
施設長 奥本初実 氏

いこいの村梅の木寮を  
少し簡単にご説明しましょう



「安心と豊かさの実感できる  
くらしの場を」と、聴覚障害者  
自身が聞こえる人と一緒になっ  
て建設運動を展開し設立した  
のが、高齢聴覚障害者施設の  
草分け、京都府綾部市にある  
「いこいの村・梅の木寮」です。  
定員50名の内48名が聴覚障  
害者でのスタートでした。

淡路ふくろうの郷「くらしの基  
本4本柱」の内、3本までが、いこ  
いの村に習っています。

- ①「自治会活動・入所者の意  
向が反映される暮らし作り」
- ②「作業(工房)：働く場」
- ③「ふくろう大学：学びの場」

これにふくろうは、④「ゆったり  
過ごす・自分のペースで」を付  
け足しています。

お手本でもある「いこいの村・  
梅の木寮」。その初代施設長  
が、現淡路ふくろうの郷施設  
長・大矢暹です。大矢の経験・  
考えの下、今また私たちも理  
想の暮らし作りに奮闘していま  
す。

今回は、いこいの村梅の木  
寮施設長・奥本初実さんをお  
招きし、講演いただきました。

一九九二年に開所した梅  
の木寮は、淡路ふくろうの郷  
より13年先輩施設です。

講演の中でもっとも印象に  
残ったことは、ある入所者が  
重い病気を患っているにも関  
わらず、「次に〇〇したい」と  
希望を持ち、その希望(目  
標)を実現するべく、職員も  
一緒に頑張りましょうというお  
話です。その姿勢とケアがと  
ても素晴らしいと思いました。

現在は入所者との外出を  
頻繁に企画できる淡路ふく  
ろうの郷ですが、これからは  
一人ひとりに寄り添う対応  
も増えてくると思います。  
「入所者の気持ちを第一に」  
を心に、私たちもがんばって  
いきたいです。

(事務：川道)



▲奥本さん  
とのお話  
をきり  
てあげ  
ました。



## 地域を語る

### 第16回

#### 三観音大祭りについて

淡路三観音霊場は、洲本市中川原町安田の松亀寺に建立されています。

松亀寺は、先山のふもと、安田(三木田、安坂)地区に江戸時代初期の元禄年間に建立された真言宗の寺院です。寺の北側の山を造成し、ここに三体の観音が造立されたのは、今から二十五年前の昭和六十年でした。中央に白衣(びやくえ)観音、西方に宝珠(ほうじゅ)観音、東方に聖観音が建立されており、淡路三観音霊場と称しています。三観音が建立されたのを記念し、以来毎年五月十三日に三観音大祭を開催し、巡礼の行っています。淡路四国八十八か所霊場でもある当寺院には、朝早くか

ら島内外各所より巡礼の方々が参拝し、おせつたいが行われています。

午後からは、柴灯(さいとう)大護摩供養が執り行われ、壇信徒や参拝者の願い事が書かれた護摩木が祈りをこめて燃え盛る炎に投じられ、願い事がかなうよう祈願します。桧葉が燃え上がり三観音前の道場は炎と煙が経ちこめる中、約一時間にわたり僧侶と参拝者の唱えるお経が厳粛な雰囲気をかもしだしています。法要後は、一転して厄除けの餅ほりが行われ、多くの方々が餅を拾う姿で境内はにぎわいます。

能満山 松亀寺

平松秀文 住職



柴灯大護摩供養の様子

### 【二〇一〇年度 淡路ふくろうの郷 予算の概要】

厳しい経営環境が続いていますが、新しい加算制度の適用で2%の収入増を見込み、それに見合った人員増で、経営理念である「人権の尊重」「地域との共生」の実現をめざします。

介護保険収入	324,300
助成金	9,000
寄付金等	8,500
その他収入	6,750
経常収入計	348,550
人件費支出	218,000
事務費支出	18,500
事業費支出	53,200
借入金利息	5,850
経常支出計	295,550
経常活動収支差額	53,000

(単位:千円)

## 第1回ひょうご聴覚障害者大会

主催: ひょうご聴障ネット



▲上記大会は3月14日(日)、「行政や議会に対して聴覚障害者福祉についてアピールするため何らかの行動がしたい」「盲ろう者・難聴者・ろう者が同じ場所に集まり、お互いのことを理解する場を作りたい」と、JR新長田駅前広場で開催されました。淡路ふくろうの郷からも7名が参加しました。近くには、昨年8月に完成した「鉄人28号」の巨大ミニメントがありました。

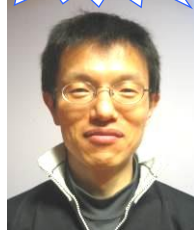
## 新連載

### ☆ 職員リレー紹介 ☆ ～記念すべき第1回～

## ふくろうっ子

八木事務長が生活援助員

角村智康(つのむらともやす)を紹介しします。



▲ふくろう新聞作りにも協力的。ありがとう！



※来月、角村さんからバトンを受け取る職員は誰でしょう？

## 新連載 地域活動支援センター おのころの家便り



▲ステキですね。描いた人の心が伝わってきませんか？

毎月1回、絵手紙をしています。利用者さんが自分の家の庭で咲いている花を持って来てくださいます。実物の花を観て描くのはとても難しいですが、みんな頑張っています。

大学で情報工学を専攻し、以前はコンピュータソフト開発のエンジニアをしていたというこの業界では変り種です。10年くらい島外で働いた後、コンピュータや物相手の仕事に飽き足らず、心機一转、人と関わる仕事を志望し、当施設開設と同時に入职してきました。

人を求めてやって来た人だけに、入所者・職員誰にでも優しく接することができ、相手をホッとさせてくれる人です。